

弁証法論理の構造と中川の「6箱方式」

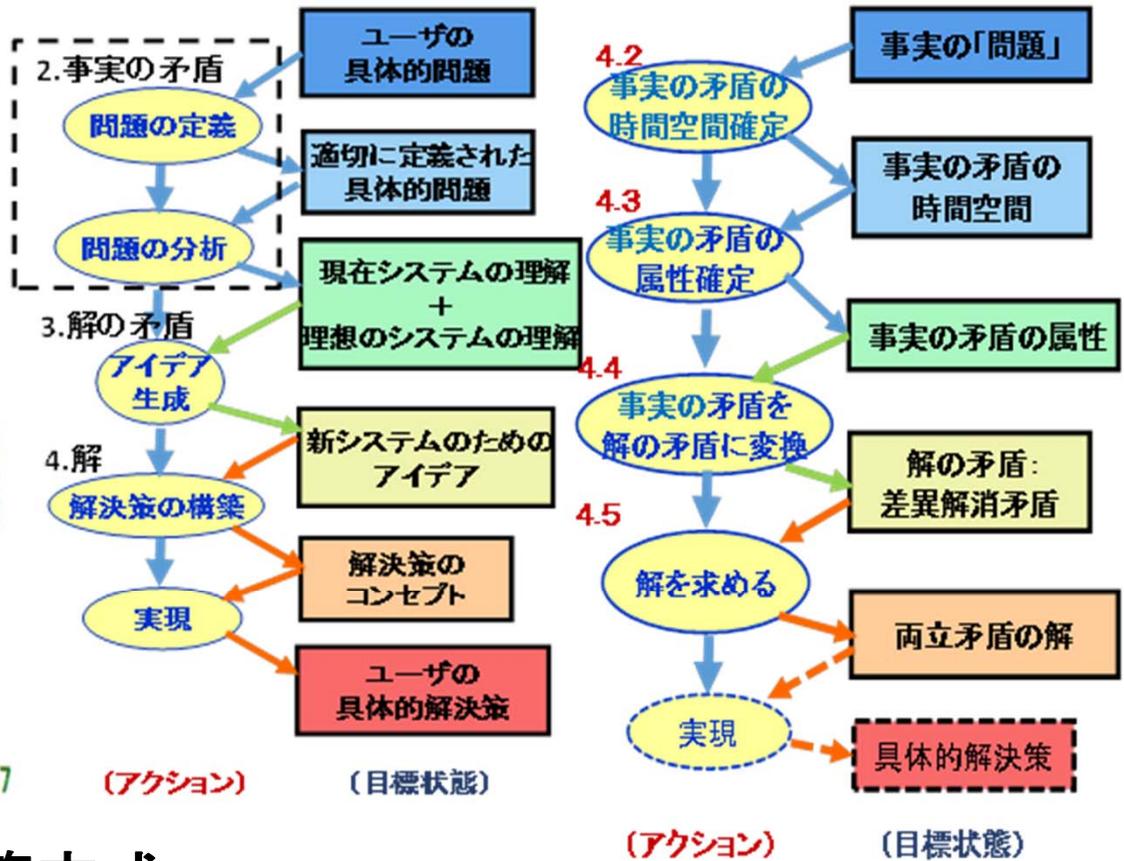
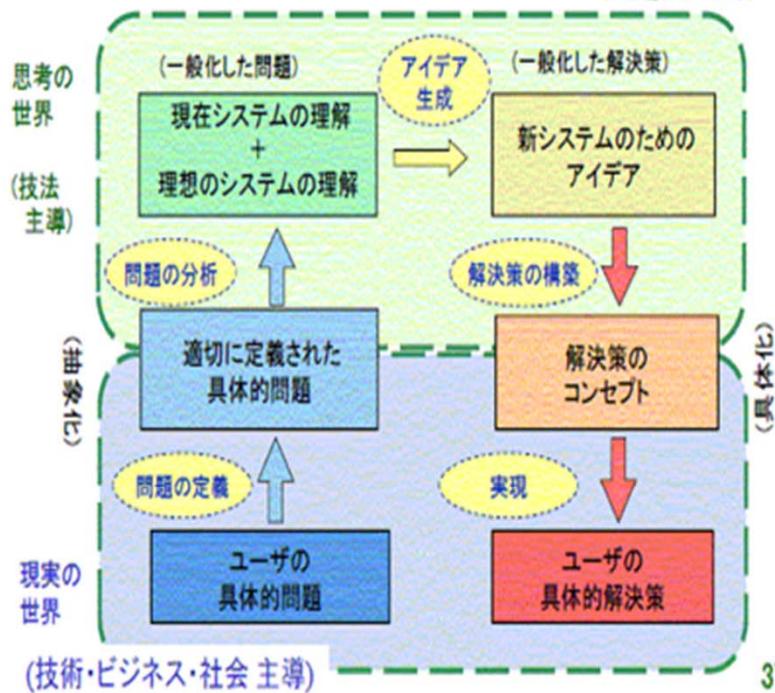
中川の「6箱方式」と本稿	02
1. 生きることの近似モデル	03
2. 生きることを最小概念で実現	04
3. 実現されるのは矛盾とその運用	05
4. 論理の一部：変更原理	06
5. 例	07

高原 利生 2015.09.16

中川の「6箱方式」と本稿

創造的問題解決の新しいパラダイム (CrePSの「6箱方式」)

中川 徹 (2005年)



中川の「6箱方式」

高原の見直し

1. 生きることの近似モデル: 事実のモデルと運用

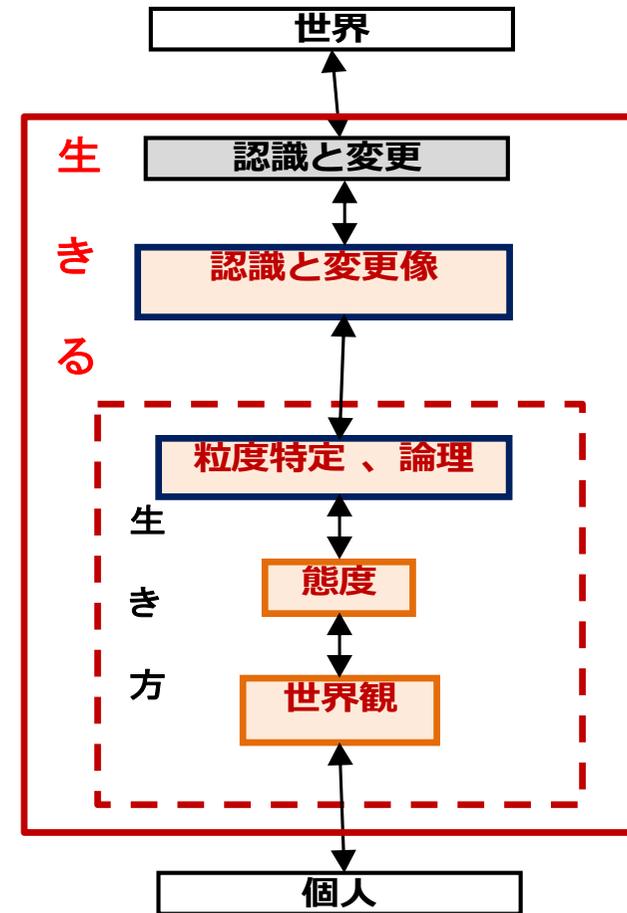
生きることのモデル: 日常から大きな課題解決に共通

1. 原動力:
価値と事実の差異解消

2. 事実のモデル:
最小モデル: 矛盾

3. その運用

右図の全項が矛盾とその運動
様々な粒度の矛盾がある



2. 生きることを最小概念で実現

生きることの近似の最小単位である矛盾は、最小の基本概念から作る運用も、最小の基本概念で行う

最小の基本概念：

オブジェクト(存在、関係)、粒度、網羅

粒度：オブジェクトの空間時間範囲、属性

粒度間の関係が論理

粒度と網羅は矛盾 → 同時決定：虹は何色？

問題がある。1. 運用から影響を受け概念も論理も、相互作用により他の概念も変化する、2. 変化するが変化前のものを含むことが望ましい、3. 変化を周知させる問題がある。

できれば論理の自動化などメリットが大きい。

3. 実現されるのは矛盾とその運用

矛盾：事実のモデルとその運用の近似単位、運動の構造



- ・項は、存在、矛盾、矛盾の複合体(様々な粒度がある)
- 項は、二値→差異解消、二属性→両立
- ・認識の場合、変更の場合
- ・事実の矛盾と解の矛盾

運用：矛盾の各項の粒度を特定し解くこと

4. 論理の一部：主な変更原理

1. 新しい構造： **オブジェクトの追加** *

オブジェクトの分割

入れ子「もの、情報が、もう片方の中に入ること」
(これが重要、全ページにあり分かりにくい)

仲介(媒介、間接化)

2. 新しい機能： **二項を関係させる** *

転用「一つの機能を他領域で使用」 *

汎用性「一つの属性が複数機能実現」

セルフサービス「それ自体で機能実現」

(* はTRIZの40の発明原理にない)

5. 矛盾、世界観の例

生きることの全ての要素は矛盾。

人類の歴史はエネルギーが主導した。エネルギーが可能性を広げ、それを実現する態度、世界観、方法の必要性が意識され、やがて実現される。(ここにも「可能性と必要性の矛盾」がある)

仮説: 人間は、得られるエネルギーの最大限度内で、活動が最大限可能になる方法とそのための世界観を求めてきた。

人類の歴史で、大きく方法とそのための世界観が変わったのは、今までに二度しかない。

項一: 農業革命の世界観

項二: 産業革命の世界観

求める世界観は、両項の弁証法的否定。新しい価値が増し続ける

5. 矛盾、世界観の例

項一：農業革命の世界観

人類が、狩猟で対象をただ殺す関係から脱し、太陽エネルギーを利用し、農業によって対象と一体的に生きる。世界宗教

項二：産業革命の世界観

化石エネルギーが物事の操作可能性を爆発的に増大させた。人類に必要なだったのは人間中心の対象化のための世界観と方法

求める世界観は、両項の弁証法的否定

一体化と対象化を統一して、人間中心主義を超え所有概念を転換して新しい価値を作る。価値は増し続ける。活動が宇宙に広がる。

その基礎が原子力エネルギー。これは隕石衝突の防止のためにも利用